

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-222
研究課題名 IBD 患者の腸管上皮における小胞体ストレスとオートファジーの関わりについて
研究期間 西暦 2013年8月（倫理委員会承認後）～ 2014年 3月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 小腸、大腸 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ）
上記材料の採取期間 西暦 2010年4月～2013年7月（すでに手術が施行され保存されている標本を対象とする。）
意義、目的 IBDの疾患感受性遺伝子として、小胞体ストレス関連、オートファジー関連遺伝子が同定されている。IBDの腸管上皮細胞において細胞生存に重要なこれらの機構はひとつの機能経路を形成している可能性が考えられる。IBD患者のヒト腸管組織を用いることでこれらが実際に病態に関わっているかを明らかにすることを目的とし、明らかになることでいまだ原因が不明であるIBDの病態に迫れると考えられる。
方法 手術により切除された腸管の標本を用い、IBDの腸管上皮細胞において小胞体ストレス関連、オートファジー関連のタンパク質の発現亢進を確認するために免疫染色を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口 下平陽介， 遠藤克哉 消化器病態学分野医局 022-717-7171 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1